

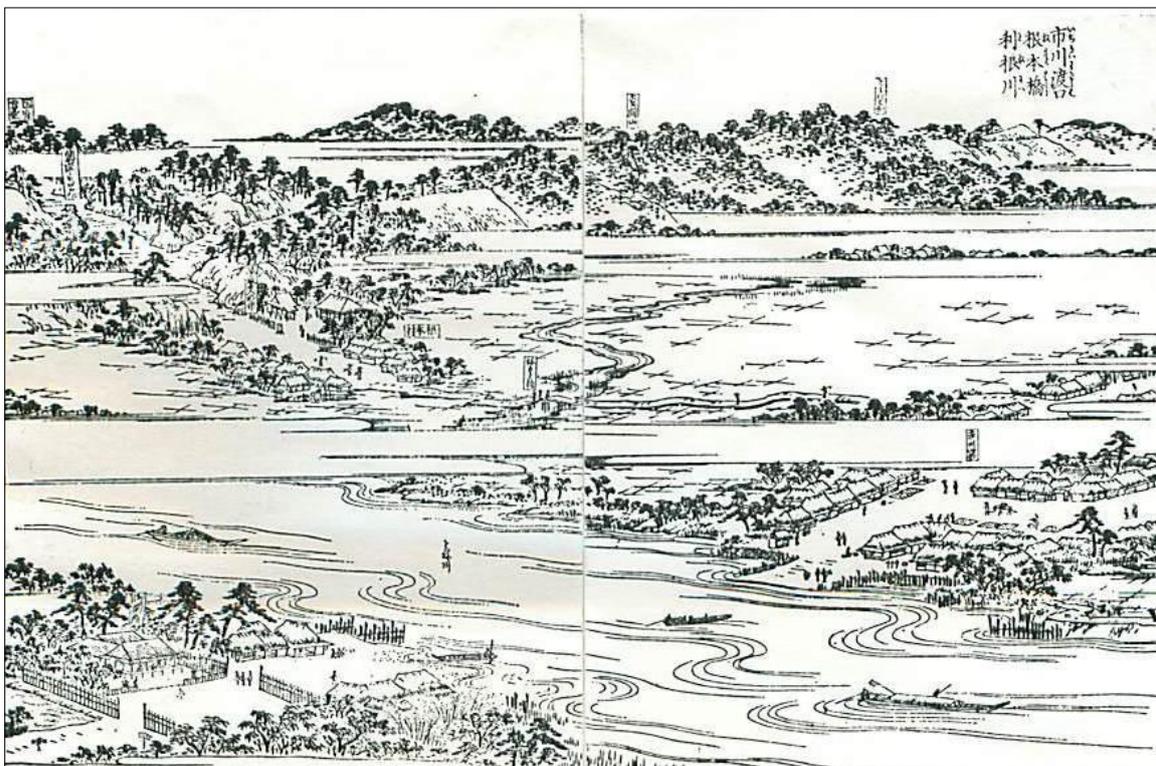
えどじだいわた 江戸時代の渡し

舟で川をわたるところを、「渡し」といいます。江戸時代には、まだ現在の荒川や新中川はなく、また中川(旧中川)や江戸川には橋を架けることが許されておらず、道をつなぐ「渡し」は大切なものでした。

小岩市川の渡し(江戸川)

江戸川区内には、旅人が大勢通った^{さくらみち}佐倉道と^{ぎょうとくみち}行徳道という、大きな道が二つありました。

その一つ、江戸と房総を結ぶ佐倉道に設けられた渡し場は、幕府から公認されていました。佐倉道は、^{せんじゆ}千住から^{にいじゆく}新宿(葛飾区)を経て小岩に至り、市川から船橋、佐倉へ向かう街道です。^{せきしよ}関所が設けられ、江戸を守るための重要な役目を担い、通行するには様々な厳しい条件がありました。



小岩市川関所(左下)と渡し(『江戸名所図会』より)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)

逆井の渡し(中川)

元佐倉道が四股で行徳道と交差して中川へ出るところにあったのが、逆井の渡しです。

対岸は亀戸村で、水鳥なども多く、富士山も見えて、たいへん景色のよいところでした。安藤広重が「名所江戸百景」の一つに描いています。

平井の渡し(中川)

もう一つの江戸川区内を通っている行徳道は、四股で元佐倉道と交差し、今井を通って、千葉県の実徳へ通じる大切な道でした。この道は浅草の観音さま(浅草寺)や、成田のお不動さま(新勝寺)への参詣路でもありました。

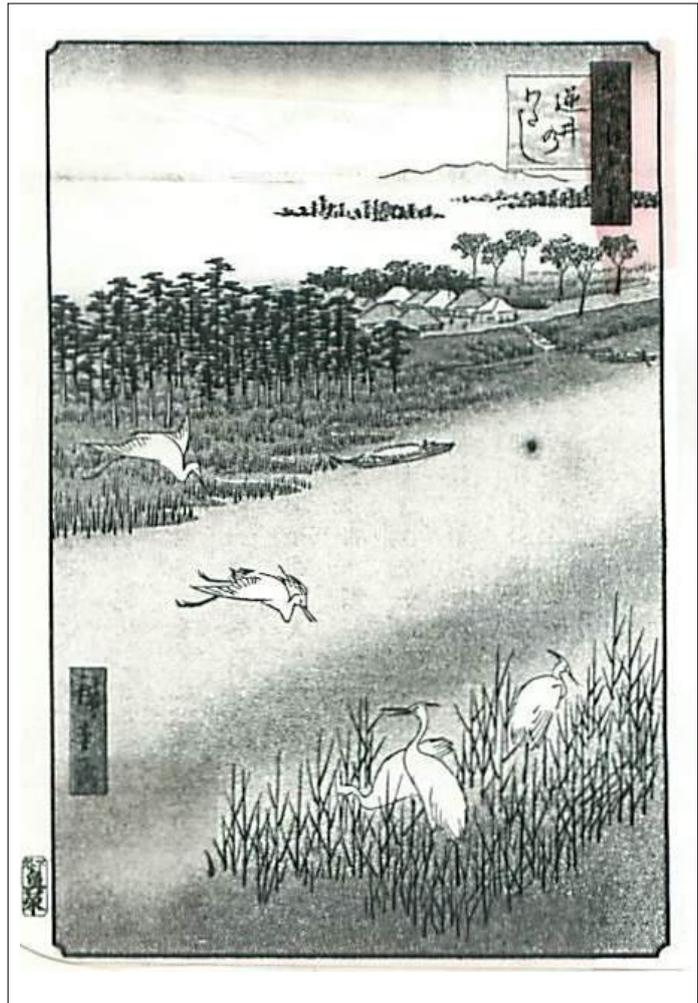
また浅草の方から行徳道へと向

かうと、中川を渡る平井の渡しがありました。なお平井には平井聖天(燈明寺)や諏訪神社があります。

今井の渡し(江戸川)

平井の渡しから、行徳道を通ってほぼ直線に区内を横断すると、今井の渡しに着きました。ここも古くからあった渡しで、いろいろな物資を輸送したと思われます。

なお、江戸時代を過ぎてからできた渡しもいくつかあります。江戸川や中川に橋が架けられると、通行に不便な渡しは姿を消してしまいました。しかし、昭和の中頃まで利用された渡しもありました。例えば“三太の渡し”(篠崎)は通学・通勤の人たちや自転車なども乗せ、昭和40年(1965)の春まで活躍しました。



逆井の渡し『名所江戸百景』安藤広重